

第4回鳥取市政懇話会「広域交流観光」部会議事概要

日 時：平成22年6月3日（木）10：50～12：00

場 所：鳥取市役所本庁舎6階全員協議会室

出席者

- 【委員】池澤幸雄委員、太田義教委員、川口博子委員、神部みゆき委員
寺本光孝部会長、中西重康委員、山本徹委員、吉田茅穂子副部会長
- 【鳥取市】杉本経済観光部長、田中観光コンベンション推進課長
- 【事務局】鹿田企画調整課長補佐、田中

開 会

部会長あいさつ

- ・皆様お忙しい中ありがとうございます。前回から半年が経ったが、「滞在型観光都市」について2回目の意見交換を進めたい。多くの観光客に来ていただいた因幡の祭典が終わり、鳥取自動車道も開通した。様々なことが変動している。どうだったか、さらにこうすれば良くなるのではないかというご意見をいただきたい。
- ・先程の全体会の中でマニフェストの話があった。因幡全体の広域観光を積極的に展開する、観光客を320万人以上にする等、掲げておられる。砂の美術館に8万7千人くらい訪れており、経済効果もかなりあると聞いた。鳥取自動車道の効果ではないかと思っている。

意見交換

○委員

- ・皆さんの中にもご覧になった方がおられると思うが、米子市・境港市・安来市の3市が共同で滞在型の観光客誘致に取り組んでいるとテレビで紹介されていた。旅行会社などの大きなところではなく、ごく小さな規模で、友達感覚で観光地を案内しましょうというような会社、仕組みを考えて、関西からの観光客を案内しているとのこと。旅行会社ではないので、すべての行程について行き、駅までの見送りなども行う。友達感覚でご案内しようということが最前線に出されたもので、なかなか良いなと思った。
- ・鳥取市だけでは滞在しないと思う。砂像を見て、一日で済んでしまう。例えば倉吉や岩美と組み合わせて滞在できるような流れを考える。市町が共同で、砂像→ジオパーク→三朝温泉というような滞在できるルートを考えていくのも一つの手である。
- ・西部のように観光スポットがたくさんあるのであれば、その場で1日2日滞在して過ごそうということになるが、東部は現段階では思い当たらない。近辺でひとつになったルートを発掘して、案内する。そしてまた、先程ご紹介したような観光案内できる会社に委託してはどうだろうか。

○委員

- ・昨日奈良の平城遷都1300年祭に行き、かなり歩かされて疲れている。帰りに大和路

急行で大阪まで行き、スーパーはくとに乗るのだが、山陽の人は新幹線があるから奈良駅でどんどん帰ってしまう。自分だけが時間を合わせるために待たなければならない、非常に劣等感を感じた。

- ・奈良から京都まで行き、山陰本線で帰るルートもあるが、余部鉄橋ができていないのでそう簡単には行けない。余部鉄橋ができて、鳥取駅まで相当時間がかかる。また、以前のダイヤより極端に少なくなっている。ということは、それを使って向こうから来る人がどれだけ減っているかということ。詳細に調べて、JR西日本にダイヤの復活を要望すべきである。
- ・自動車道だけではなく、鉄道という面を見直すべき。余部が供用開始になる時期にあわせて猛運動を起こし、山陰本線のダイヤ復活を。これでは京都や大和路の方から人は来ない。
- ・鳥取豊岡宮津の自動車道がある。先程の3市のような意味合いで、鳥取と豊岡はジオパークも含めてもっと交流を深め、パイプを太くする運動を起こしては、ということをご提案したい。但馬や京都までのパイプを太くするには、余部鉄橋の供用開始に合わせて運動を。道路がつながったというだけで何もかも追いついたと思ったら間違いである。

○委員

- ・交通からの発想の転換だが、トライアスロンを鳥取に持ってきてはどうか。浜村もあるし、色々マラソンコースもある。これは経済効果が違うので、鳥取も目を向けてはどうか。相当な人が集まるので、経済効果がすごいということを頭に置いていただきたい。
- ・観光といっても、一時的なことで終わるのではなく一大イベントとする。鳥取でもトライアスロンコースができないことはないと思う。海もあるし、マラソンコースもあるので。

○委員

- ・昨年からの疑問に思っているが、数か月に一回会議を開催して、何を指すのか分からない。出た意見に対して、どう活かそうとしたのか、活かそうとしたがだめだったのか等、次の回に市からの打ち返しがあるわけでもない。もしうまくいきそうであればそれを具体的にすることに絞って話し合えば深まると思うが。2年かけてまとめたところで、スピードが求められるこの時代に2年も経てば時代遅れとなる。

○委員

- ・これまでもずっとやってきている。受け止めて検討して答えを出してきていると市は言われる。昔に比べれば確かに早くなったし、きちんとした答えも出るようになったが、やはりまだ時間がかかっていると思う。
- ・ジオパークを見に行こうという話がでたこともあったが、その時だけ盛り上がり終わっている。「このテーマを継続したい」ということがあれば、市に申し入れて継続すればよいと思う。

○部会長

- ・最終的に提言をまとめるわけだが、テーマをその都度変えてきたことで、広く浅くとなってしまうのかもしれない。もしこれだ、というものがあれば、深くやっていきたいと思う。

○委員

- ・この部会でジオパークを見に行ったら変わるところではない。それよりも、市長や知事がJR西日本の中枢部に行って、ダイヤを改正する人たちを交えて話をすることが大事。全日空の東京5便化もそう。署名運動などではなく、全日空でも国交省でも、ダイヤを変える人たちにトップが近づいて、直接言える仕組みを作り上げなければ。
- ・知事がウラジオストクや韓国に行ってトップセールスをしているが、知事だけに任せずそのフォローを市長がし、市長のフォローを我々ができるシステムを作らなければ、ダイヤ一本変わらない。
- ・我々がジオパークの視察をしようというような話をしても始まらない。全日空だろうとJRだろうと、どんどん行かなくては。視察よりもそのほうが大事。鳥取にも一便増やさないといけないという気持ちを起こさせるにはどうすればよいかを考える。
- ・遷都1300年祭の奈良はけたが違い、100万人突破している。やはり交通の便がいい。それから、平気で何キロも歩かせるがそれは当然である。シャトルバスだの言っていない。鳥取は何でもシャトルバスというが。
- ・学者の先生のジオパークの説明は下手だが、奈良のガイドは要領よく、とても上手。ガイドを養成する研修所を作る等、具体的にもっていかなくては。

○委員

- ・具体的な話が出て、市からのリアクションがない。どう活かしたのか、検討したが採用するにあたらなとか。

○委員

- ・県議会でも市議会でも、ジオパークをいっぺん見に行かないと分からないような人がいても何にもならない。
- ・砂像だけは立派だから宣伝している。
- ・何かの形で具体的に歩もう。

杉本経済観光部長

- ・懇話会の運営の仕方にスピード感がない、あるいは皆様からいただいたご意見について、こういった検討を加えてこんな事業を始めた、といった打ち返しがしっかりしてない点は、今後皆様にしっかりお伝えする努力をしたい。
- ・現地を一緒に視察しながら新しいアイデアを出すことも大切なことだと思う。そのような提案があれば日程の調整を行い、速やかに実施する努力をしたい。
- ・奈良は100万人突破したというお話があった。交通アクセス、バック人口、観光資源の内容、規模や質が違うが、鳥取には鳥取の良いものがある。そういった点についてしっかり磨きをかけ、皆様からのご意見を踏まえながら、お客様の求めているものは

何かといった部分も反映しつつ、鳥取の観光を盛り上げたい。

- ・そのためには先程お話のあった倉吉等の近隣との連携、あるいは滞在型であれば鳥取のみの観光資源での受け入れは厳しいものがある。そこで、これまで話題に出ているジオパークは、新しい可能性を秘めている。
- ・鳥取自動車道が開通し、観光の入り込みが促進される要素が増えた。一方で、鳥取豊岡宮津といった広域観光を促進するには交通の基盤が必要。また、JRの運行、乗り換えの不都合な部分は、行政としても地域の皆様と一緒にあって要望していくことは重要だと思う。
- ・一方で、交通事業者は需要がどの程度見込めるかを重視する。利用の促進を図る、観光客の入り込みを促すような新しい仕掛けをしっかりとしていけないといけない。
- ・トライアスロン等の、目的を持ってその地域に来て自分で参加する、参加型・体験型の観光・スポーツ大会は需要が見込める部分である。今でもマラソンは大勢集まるが、鳥取らしいもの、新しいものにチャレンジすることが必要。
- ・皆生や三朝に比べて、鳥取は宿泊受け入れの容量が小さい。大型のコンベンションは県全体で取り組みを進めているが、小規模なコンベンションの誘致ができるような鳥取市独自の制度を充実させようと、6月議会で提案をする。観光・宿泊事業者の方々や大会運営者の方々に、鳥取市の受け入れは他の都市と違うことを宣伝しながら、鳥取らしい賑わいや、おもてなしをするという発想も取り入れながら頑張っていく。
- ・運営にまずい部分があるというご指摘について反省し、いただいたご意見をどのような事業に反映させるか、できない理由は何か等、打ち返しもさせていただく。

○委員

- ・鳥取自動車道の開通という話が出た。市長にも直接言ったこともあるが、鳥取自動車道は地図に載っていない。国交省の配信している道路交通情報にも出てこない。有料道路や高速道路の路線図には入っていない。例えば、関西の人などが鳥取に来ようとして経路検索を行っても、そこにも鳥取自動車道は存在していないので検索できない。そのような所を直してはどうかと市長に伝えたが、そのままである。開通、開通というが、多くのユーザーには認知されない。いわゆる多くの人達が見る経路検索の地図には鳥取自動車道は存在していない。

杉本経済観光部長

- ・問題がある。しっかり要望したい。

○委員

- ・鳥取の視点で、関西や山陽から人が来ることばかりを考えて意見交換をしていること自体がひょっとしたらおかしいのでは。関西や山陽に住んでいる人の目線で鳥取を見て、鳥取に行くのだったらどうだろうという逆算でそれをおさえていかななくてはいけないのでは。
- ・鳥取に泊まることばかりを言わなくても、城崎だろうと湯村だろうと泊まる人をたくさん作ればよい。分母が大きければ、こちらにやってくる人も増える。小さいことを考えず、こちらに泊まっている人も天橋立の方まで行けばよい。そのような感覚で、関

西の人たちをこちらに来させるような逆算の発想をするのが近道。そのためにはどのポイントを押さえ、どのような運動をしていくべきかを考えてほしい。それに対して我々がどう協力できるかである。

杉本経済観光部長

- これまでいただいた意見を決して聞きっぱなしにしていたということではなく、大切に、事業や活動の中に取り入れる体制をとっているが、うまく伝わっていなかった点をお詫びし、誠心誠意やらせていただく。

○委員

- 昨年の第2回の部会で、鳥取、兵庫、京都110キロの長距離ラインをひとつの線で結ぶべき、として「〇〇ロード」という構想を提案した経緯がある。現実に、今年の正月明けに山陰海岸ジオパークの世界ジオパークネットワーク加盟を目指して3府県の議員会が立ちあげられ、1月末に鳥取豊岡宮津の自動車道の整備促進を願って愛称を「ジオパークロード」とする、という宣言を採択しているようである。これは自動車道整備促進をいうことが全面に出た、硬直した議員先生方の考えである。この場で11月に語った中身はそうではなく、どうやってひとつのラインとして全国発信できるかということ。場合によっては住民公募をという体制をとってもよいのでは。堅苦しいものでなく、何かもっと、ぬくもりのあるものを。名称を公募することで、各地域の連携も生まれてくるのではないか。
- 鳥取豊岡宮津道路の現在の供用部分は10キロ足らずである。地元の人たちの、道路のつながりというものの意識が非常に薄いのではないか。ただ便利になるために道路整備をうたう、というだけでは地域住民はのってこないのでは、という思いがしてならない。
- 現実の問題として、せっかくこの部会で昨年議論したロード名称運動なので、これをする気持ちが行政側にあるのかどうかお聞きしたい。
- 継続性というものを考えた場合、ジオパーク論よりも本来の広域観光路線のほうが、より具体的な討議ができるのではないかと内心想っている。
- 因幡周遊ルート徹底ガイドの冊子に、「水のある風景を訪ねて」というコーナーがあり、鳥取市の旧気高郡域の水に関わる場所が紹介されている。これはジオパーク論でいくと白兔海岸止まりである。ジオパークのパンフレットを開いてみても、線引きされ、この先は関係ありませんよと言わんばかりの案内しか出ていない。
- 継続性、広域観光という言葉の意味から考えると、旅というものは目的地もさることながら、その先に何があるのか、できれば行ってみたいなのというのが旅を計画する人の考え方の基本となるもの。旅人の心には、未知の部分に対する探求心が常についてまわる。
- この発想からいくと、ジオパークの宣伝パンフレットが白兔海岸止まりというのは、実に冷たい地域性があるのではないか。鹿野温泉、浜村温泉、井手ヶ浜等色々ある。ジオパークロード構想の提唱と同時に、白兔海岸止まりという冷めた発想ではなく、鳥取市全体の地域を掘り起こしていくようにすべき。地域の人々の興味をそそるような手法も考えていただきたい。

○委員

- ・以前に、ジオパークは海の上ばかりでなく海の底も大事ではないかという話をした。特に、スキューバダイビング等の世界は、なかなか地元の漁業者の理解がうまく得られず、進んでいないと申し上げた。
- ・実は田後の漁協と会社を立ち上げ、5月に「ブルーライン田後」というショップを始め、効果が出てきている。特に、山陰の海の中の生物は非常に珍しがられる。日本海新聞にも何度か紹介された。手ごたえを感じている。
- ・漁協との協力でやったものだが、ただもう少し、ジオパークがどのように大切かというコミュニケーションがよくとれていないというところがある。岩美町も苦勞されているようだ。
- ・鳥取は温泉という名称が売りになっているが、温泉そのものの活用はいまひとつ協力体制がとれていない。城崎や九州は温泉をはしごする、回遊することが自然になっている。鳥取の温泉も、もう少しそのような面の取り組みを行う必要がある。
- ・温泉の活用を行うべき。三朝温泉は、タンクで鳥取の介護施設等に温泉を売りにきている。有り余っている温泉は持って行って売るなど、しっかり考えては。行政が調整をはかっていく必要があるのではないか。

○副部長

- ・ジオパークはどこからどこまでと決まっているものなのだから、先程の冷たいという話は仕方がないと思う。これはこれとして、それ以外に鳥取県全体の観光を大きな目で考えていかななくてはならない。
- ・温泉の問題や砂丘や様々あるが、一番大切なのはソフト面。一度行って見て、もう二度と行きたくないという思いをさせないこと。
- ・国民文化祭の委員を務めた時、ある県では運転手の態度が悪い、会場への道を知らないといった状況があった。まず県外の方が接触される表玄関となる所、JRの切符売り場の方、タクシーの運転手、それから県民一人ひとりが温かく接すること。こんな親切をしてもらったというささやかなことが、また行きたいという思いにつながる。ソフト面が大切だと切実に感じている。
- ・鳥取県はPR不足、PR下手だと思う。最近NHKの全国版で砂丘や大山を放送したり、連続ドラマもしていただいているが、未だに鳥取と島根を反対に考えている人がいる。少しひどい言い方かもしれないが、さいたま市のようにひらがなでとっとり市と書いたらはっきり分かって良いのではないかと個人的には思う。
- ・先日横浜を通ったが、残念ながら構内に鳥取のPRポスター等を見つけることができなかった。もう少し、お金をかけずPRする方法を。私は東京育ちの東京人間だが、鳥取にはまったのは空気や自然の美しさ、食である。新鮮な海の幸、山の幸があることをもっとPRしてほしい。
- ・今、中国や韓国が非常に近くなっている。そういう方々に対する案内板を設置してほしい。留学生と交流しているが、鳥取は分からない、字が読めないと聞いている。どんどんそういう方々がこれから増えてくると思うので、もう少しそのような面も考えていただきたい。
- ・広域観光という大きなテーマについて意見交換を行うには、やはり時間が短いように感

じる。また、自分たちの意見が言いつばなしにならず、実を結ぶ日がくるのだろうか
と皆さん不安に思っているのではないか。

◇田中観光コンベンション推進課長

- ・様々なすばらしいお話をお聞かせいただいた。
- ・人口減少社会で、地域競争も激しい。どの地域もがんばっている状況の中で、観光客を画期的に増やすのはかなり難しい。
- ・どれだけ鳥取に滞在していただき、滞在時間を伸ばし、お金を落としてもらおうかということが、地域経済の活性化のうえではとても大切である。
- ・そのために、各地の観光素材のブラッシュアップを行っていく。今、鳥取市は鳥取砂丘で砂像というものを使って一生懸命やっている。
- ・お話の中にもあったが、鳥取市ひとつだけががんばっても限界がある。但馬との連携、因幡1市4町の連携、三都市（姫路・岡山・鳥取）の連携、西部との連携、島根との連携等、力をいれていきたい。地域全体で盛り上げていかないといけない。
- ・JRと地域とが連携して観光素材を売り出し、JRを使ってお客様に来ていただく「destinationキャンペーン」というものがあり、因幡地域は今度の春の4～6月に実施してもらうように計画している。そのために鳥取・因幡観光ネットワーク協議会の中で商品作りを行っている。どんどん連携を強め、観光素材をブラッシュアップして良いものにしていく活動を行っている。
- ・おもてなしもとても大切であり、力を入れたい。ここで皆様がお話しされたことは、近々完成する観光白書に散りばめられている。課題の整理をし、政策に結び付けていくことを考えているのでよろしくお願ひしたい。観光白書は皆様にもお届けする。

○部会長

- ・会の進め方だが、皆さんからいただいた様々なご意見について、どうなったかを会のはじめに鳥取市から投げかけてもらえればいいのではないかと思う。

◇杉本経済観光部長

- ・実は本日いただいた意見の中には、これまでにいただいていたものもある。取り組みや検討、今年度既に事業を始めているものもあるので、委員の皆様に戻させていただく。次の会にはさらにテーマを絞って議論していただければいいのではないか。

◇鹿田企画調整課長補佐

- ・様々なご意見をありがとうございました。この場でお返しできるものもあるが、改めて担当課の意見等もまとめて、会の議事概要と併せて回答させていただきたい。
- ・JRへの要望もやっちはいるが、利用がどうかということが足かせになっている現状のようである。そのあたりも含めて話をさせていただきたい。
- ・今朝のNHKの番組で、高知の還暦野球のことをやっていた。たくさんの方が集まり、土産物屋に列ができるとのこと。トライアスロンが可能かどうか、担当課に意見を聞いてみたい。
- ・高速道路の地図の話も出てきた。そのことは知事も認識しており、公団に申し入れされ

たと聞いている。実情を確認したい。

◇杉本経済観光部長

- ・PRがうまく行き届いていない部分は、我々もそれなりにお金をかけながら努力しているが、まだまだ届いていない。

◇鹿田企画調整課長補佐

- ・まとまったものは文書でお返しし、次回までにご覧いただく。未確定の部分は次回に直近の状況をご案内差し上げる。ご承知いただきたい。

○委員

- ・一つだけ。なぜNHKの山陰の天気予報はいつも松江だけなのか。鳥取が出る方法はないか。

○委員

- ・地域的な気象の特徴の中で決めており、NHKの場合は山陰の中では松江を表示するというかたちになっている。

○委員

- ・旅行しようという人は必ず天気予報を見る。山陰は松江だけ。なんとかならないかといつも思っている。

○委員

- ・関西のローカル放送の中では鳥取が出るようにしてもらっている。

◇杉本経済観光部長

- ・その影響で、鳥取を身近に感じてもらっていると聞いている。

○副部長

- ・鳥取という場所がここだと表示される。鳥取にかえてもらいたい。

○委員

- ・それはNHKが決めることなので・・

○委員

- ・47都道府県全てが入るスペースがとればよいが、鳥取、島根に限らず、四国も全県のっているわけではない。のっていない県からは必ず毎回要望が出ている。
- ・もっと言えば、中国地方の天気予報を広島局が伝える際に、どのような順番で伝えるかという問題もあり、なかなか大変である。
- ・気象の表示については気象庁の話聞き、天気の特徴が代表される場所をこちらで選択しているというかたちである。

○委員

- ・一つだけ。市政懇話会の前に、1年スパンの100人委員会というものがあり、とにかく要望書を出して、すぐに返答があった。この市政懇話会は2年というスパンだが、100人委員会のようなシステムにはならないのかと思っている。

◇杉本経済観光部長

- ・スピーディーに対応させていただくようにしたい。

○部会長

- ・これで閉会する。様々なご意見をありがとうございました。

閉会